

## 「神が下さる一日を受け留め神と共に生きる」 マタイ6：33～34

I 「神の国（神に自分の心を支配していただく）とその義（神の前の正しさ、みこころ、神との正しい関係）とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのもの（真に必要なもの）はすべて与えられます」：33。

II 「だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります」：34。1. 明日以降の準備が無用とは言われていない。健全なバランスが大切。過度の心配と健全な準備（たとえば、旅行までの前準備は必要。「明日やる」と怠けていると、間に合わなくなる。忘れ物も増える）は違う。「相談して計画を整え、すぐれた指揮のもとに戦いを交えよ」箴20：18。祈りつつ健全な計画をすると、かえって計画した中の一日分を果たせる。無用な心配、良くない心配とは、準備をしても、将来の問題を想像し膨らませ、思い煩いに心が支配され、何もしなくても心が消耗し、神が与えられた今日という大切な一日を心を込めて生きる事を台無しにする事。2. 明日の事、将来は私達には、わからないし、コントロールできない。「あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません（それなのに、私達が今日まで命が与えられ生かされているのは、ただただ神の恵み、憐み）。むしろ、あなたがたはこう言うべきです。『主のみこころなら（「神の国とその義を第一にして」）、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう』ヤコブ4：14, 15。「あすのことを誇るな。一日のうちに（明日の事だけでなく、今日の事も）何が起こるか、あなたは知らないからだ」箴27：1。神を思わず自分勝手な人生を考える貪欲な人に語られた御言葉：「愚か者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる」ルカ12：20。神は、人間の命の造り主、支配者。明日、私達に命があるかどうかは、神のみが御存知。毎朝目が覚める時、私達は、それを当然と思わず、このように受け留め感謝して祈りたい。「天のお父様。今日という日を与えて下さり心から感謝します。今日という一日を大切にあなたと共に歩ませて下さい」と。「あすのことはあすが心配します」→明日は、神の御手にある。明日の事は、明日を支配しておられる神が心を配って下さる。だから、神が与えられた今日という一日を大切に神と共に生きよう。3. 「労苦はその日その日に、十分あります」：34。主は、うそをつかれず、真実を語られる。私達が神のご計画で生かされているこの地上では、労苦はその日その日に十分ある。と同時に、労苦や弱さの中で、主の恵みも十分ある事を忘れてはいけない→II コリ12：9。神は労苦と恵みをセットで下さる。全生涯に起きて来そうな困難を想像して、来る日も来る日も過ごしてはならない。それでは、押しつぶされてしまう。次のように、正しく考えるべき→「一日には、一日分の問題、困難、労苦がある。問題は日によって違う。大切な事は、その日はその日自体として、その日を一単位として神からいただき過ごす事。ここに今日一日分の分量がある。今日は、これに直面して、主に頼って、これと取り組むべき。先走りして、今日の分に明日の分を付け足してはならない。そうしないと、荷が重くなり過ぎる。来る日来る日毎に、その日の分を神から受け取るべき。ここに、今日の分がある。それに直面して主と共に取り組もう。明日には明日の分があるだろう。しかし、それは明日来るのであって今日ではない。過去や将来の思い煩いに支配されないように祈ろう。神が下さった今日を生きよう。この日は主が与えられた大切な日。過ぎ去った事や将来の事への過度の心配に、時を使わないように祈りたい。

もう二度と来ない今日を大切に主と共に生きることができるよう。4. 神に一般的に信頼するだけでなく、身に起こる一つ一つの事に、新鮮に神に信頼し頼む事を学ぶ事が大切。今日私達を助けて下さる神は、明日も私達を助けて下さる。一步一步。この世の生涯を、一日毎に、分割して生きる事を学ぶ必要がある。一日毎に主に頼む。全生涯の重荷を今日全部、神が下さるなら私達は倒れる。しかし、神はそうされない。朝があり、昼があり、夜が来て休むという区切りは創造主の知恵、配慮。ずっと昼なら休みにくい。一日分の労苦を一日毎に下さる。私達の誤りは、全生涯の事をまとめて神に信頼し、一日一日を区切って神に頼もうとしない事。色々な事が自分に起こって来る度に、新鮮に神のみもとにそれを持って行く事が必要。また、いつも神よりも先走ってはならない。「明日、将来、こんな事が起きたらどうしよう。神が何か要求されたらどうしよう」と。決して神の先を越してはならない。自分で自分の将来の問題を先走って考え、重荷を自分で増やしてはならない。神があなたのために用意しておられる神の将来を先走って考え心配してはならない。神が下さる一日一日を神に頼り生きよう。来る日毎に、私達を心から愛しておられる神に従う生活を生きよう。神が、その日その日にするように導かれている事を識別し、できるように祈りたい。私達は、一度決定的に神に自分を委ねる。しかし、別の意味で私達は、毎日自分を神に委ねて生きる。私達が主を信じた時、神は決定的に救いの恵みを下さった。と同時に、神は、毎日、その時その時必要な恵みを下さる。毎日を始める時の自覚：「今日も、目が覚め神から命をいただき感謝します。この一日、一日分の労苦がある。その時その時、神に頼み助けをいただこう。神は私が助けを必要としている時、いつも私と共にいて下さる!」。過去への後悔と将来への心配をすべてを益として下さる神に委ね、今日という一日を日毎に神からの贈り物として受け取る。日毎に神と共に歩み、その日その日の必要を神に祈り求め、お交わりをする。神は私達の問題、悩み、必要をすべて知っていて下さる。その神が私達を日毎に支えられる。